

衛研だより

vol.
53

目次

○ 所長就任のご挨拶…P1 ○ 新規導入機器の紹介…P2 ○ 麻しん(はしか)、特に海外からの輸入麻しんが増えています…P2 ○ 平成26年度「夏休み子ども体験学習」のご案内…P3 ○ 感染症発生動向調査について…P4

所長就任のご挨拶



堺市衛生研究所長 小林 和夫

平成26(2014)年4月1日、堺市衛生研究所 田中 智之 前所長の後任として、堺市健康福祉局健康部衛生研究所長を拝命し、着任しました。

私は昭和52(1977)年に昭和大学医学部を卒業後、昭和56(1981)年に同大学院医学研究科臨床医学系(内科学:臨床免疫学、リウマチ・膠原病学、感染症学)を修了後、3年間、アメリカ合衆国コネチカット州立大学医学部で博士研究員として感染免疫学や分子病理学を研鑽しました。さらに、部門の責任者として、大学(昭和大学医学部や大阪市立大学大学院医学研究科)や国立感染症研究所で構成員と共に感染症の基礎・臨床・社会医学を学びました。

衛生研究所の使命は市民の公衆衛生の向上や健康保持・増進に寄与することであり、役割は地域における科学的かつ技術的中核として保健衛生行政に科学的根拠を提供し、関係行政部局や保健所と緊密に連携し、施策を支援することにあります。衛生研究所の主要な業務は1)試験検査、2)調査研究、3)技術指導・研修、4)公衆衛生情報の収集・解析・発信であり、具体的には細菌、ウイルス、環境、食品・家庭用品・医薬品などの安全性確保の試験検査及び調査研究、外国人や大学生の研修受入、感染症発生動向情報の収集・解析・発信など、衛生研究所の業務内容は市民の健康に関し、広範な領域に及んでいます。

私の生地は関東(栃木県)、主要な勤務地は東京でしたが、過去に大阪市立大学大学院医学研究科(大阪府大阪市阿倍野区)に教授として平成11年(1999)から7年間在籍し、今般、大阪府堺市に奉職することになり、大阪に浅からぬ縁や運命を感じています。関西弁はできませんが、私は大阪の人情、風土、歴史、食べ物が大好きであり、私にとって大阪は正に第二の故郷です。

衛生研究所の使命や役割を果たすべく、私は所員と共に精励し、業務を推進する所存です。私自身は地方衛生研究所の勤務経験はなく不案内ですが、今後共、ご支援・ご協力のほど、宜しく、お願い申し上げます。

新規導入機器の紹介

当研究所では平成 25 年度、放射性物質や残留農薬検査体制のさらなる充実のため、「ゲルマニウム半導体検出器」および「ガスクロマトグラフ-タンデム質量分析計 (GC-MS/MS)」を導入しました。

ゲルマニウム半導体検出器

放射性物質の検査

これまで、ヨウ化ナトリウム (NaI) シンチレーション検出器を用いて、堺市内で流通している農産物等の放射性物質を測定していましたが、本機器の導入によって、さらに基準値の低い牛乳や乳児用食品、飲料水の精密な測定が可能になりました。

食品中の放射性セシウムの基準値

	基準値(ベクレル/kg)
一般食品 	100
乳児用食品 	50
牛乳 	50
飲料水 	10



ガスクロマトグラフ-タンデム質量分析計 (GC-MS/MS)

残留農薬等の検査



食品中の残留農薬は国の規制により、農薬毎に原則 0.01ppm (食品 1000kg 中に 0.01g) という厳しい基準値が設けられています。

本機器の導入によって、何百種類におよぶ農薬を、低濃度でも高い精度で測定することが可能になりました。

当所では今後も、業務内容の一層の充実を図りつつ、正確で迅速な検査を行うことによって、食の安全安心の確保に努めてまいります。(理化学検査担当 中村)

麻しん(はしか)、特に海外からの輸入麻しんが増えています！！

麻しんとは？

麻しんは麻しんウイルスが原因の感染症です。麻しんウイルスは感染力が非常に強く、感染者の咳やくしゃみ、感染者との接触などで感染します。

感染すると発熱、発疹、咳や鼻水などの症状が現れます。全身の免疫力が低下するため、他の細菌などに感染しやすくなり、肺炎、脳炎や中耳炎などを合併することもあります。また、妊娠している方は流産や早産の原因にもなります。通常は自然軽快しますが、稀に重い合併症により重篤な後遺症を招来したり、死亡することもあります。

流行状況は？

現在、全国的に麻しん患者数が増加しており、特に海外からの輸入事例が例年より多く報告されています。また、海外で感染して帰国後に発症したことを契機に海外渡航歴のない人にも広がっています。大阪府内でも同様に患者数が増えており、今年に入ってから4月下旬までの時点ですでに昨年1年間の累積患者数を上回っています(図1)。

国は平成27年度までに麻しんを排除することを目標としており、麻しんを正確に診断する必要があります。そのため、堺市では麻しんの疑いがある症例の病原体検査診断を実施しています。現在のところ、麻しんウイルスは検出されていません。しかし、麻しんの流行時期は春から初夏にかけてですので、今後も注意が必要です。

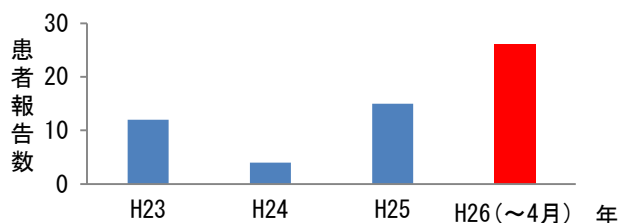


図1. 大阪府における麻しん患者報告数

(出典：大阪府感染症発生動向調査より)

予防方法は？

麻しんはワクチンで予防できる疾患です。確実に予防するためには2回のワクチン接種が必要です。



現在、1歳から2歳未満(第1期)と5歳から7歳未満で、小学校就学日の1年前から就学日の前日までの間(第2期)の子どもに麻しん・風しん混合ワクチン(MRワクチン)の定期接種が行われています。お子さんが定期の該当年齢に達したらすぐに予防接種を受けましょう。また、定期接種対象でなくても予防接種を受けたことがない人はもちろん、1回しか受けていない人も免疫を十分に獲得できていない可能性があるため積極的に予防接種を受けましょう。(ウイルス検査担当 岡山)

平成26年度「夏休み子ども体験学習」のご案内



今回のテーマは「色のふしぎを体験しよう」です。ご家庭でもよく食べる『ある野菜』を使って、酸とアルカリのひみつをさぐる実験を行います。色が“イ□イ□”変化するふしぎ実験を楽しみましょう。実験が大好きな皆様のご参加をお待ちしております。



昨年度の様子

内容：酸とアルカリのひみつを調べてみよう



日時：8月7日(木) 14時~16時

会場：衛生研究所(堺市堺区甲斐町東3丁2-8/ ☎072-238-1848)

参加費：無料



対象：市内在住の小学5・6年生 7月2日より受付開始。先着20名まで。

詳しくは広報さかい7月号/衛生研究所ホームページ

(<http://www.city.sakai.lg.jp/kenko/kenko/hokencenter/eiken/index.html>) をご覧ください。

感染症発生動向調査について

ウイルス感染症の手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱は夏期に流行する感染症です。

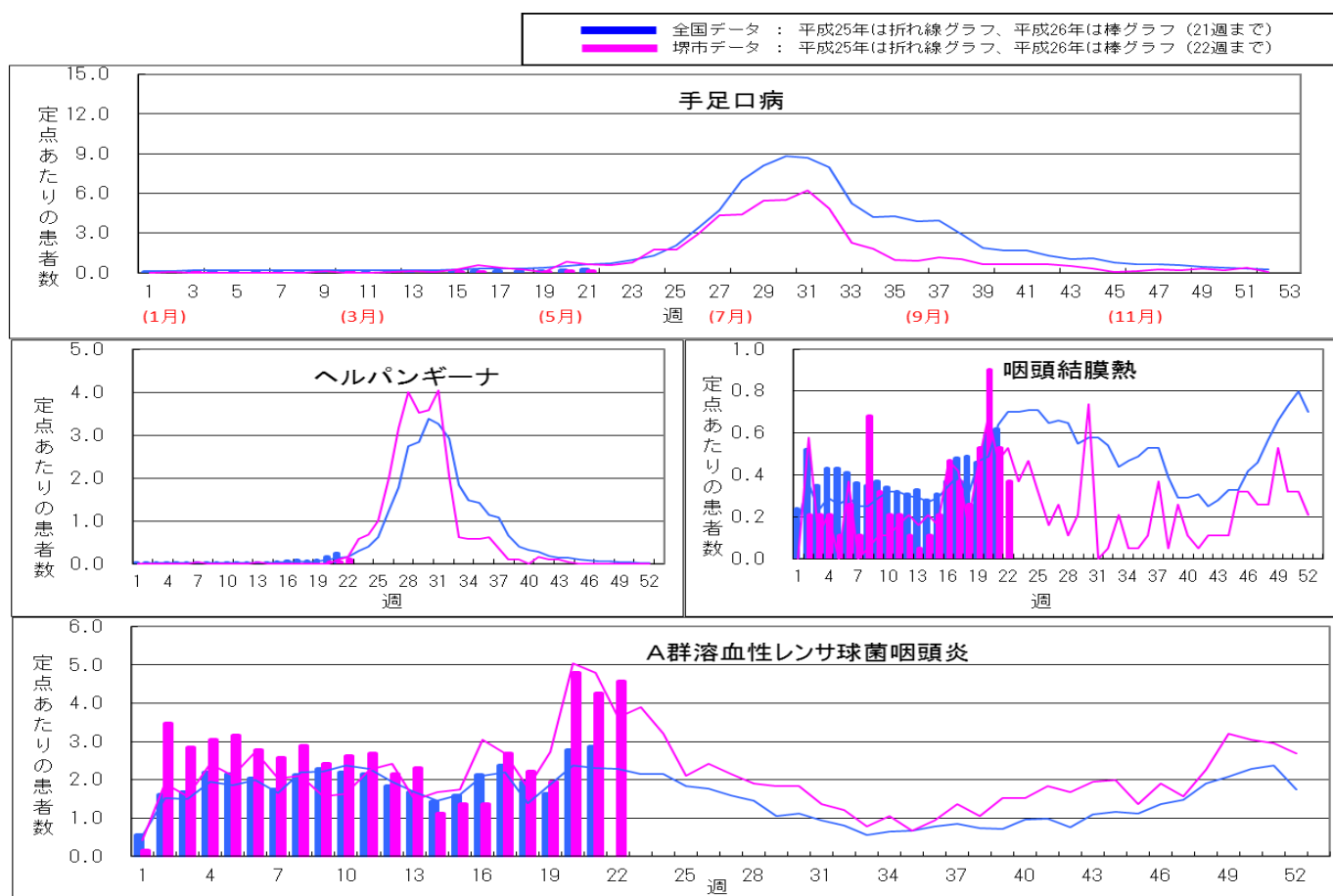
手足口病は口腔粘膜や手のひら、足の裏などに現れる水疱性の発疹を主症状とする感染症です。手足口病は例年夏期にピークとなりますが、昨年は第31週（7月末～8月初め）に定点あたり報告数が6.2と警報レベル5を超える大きな流行となりました。原因ウイルスとして、昨年はコクサッキーウイルスA群6型やエンテロウイルス71型が検出されました。

ヘルパンギーナは38℃以上の突然の発熱に続いて口腔内に水疱や潰瘍ができ、疼痛による食欲不振などを伴います。毎年7月頃にピークとなります。病原体は、主としてコクサッキーウイルスA群です。

咽頭結膜熱は38℃～39℃の発熱と、咽頭炎、結膜炎などの症状を引き起こす病気です。高熱が5日前後続くこともあります。プールでの接触やタオルの共用により感染することもあるため、「プール熱」と呼ばれることもあります。アデノウイルス3型が主な原因ウイルスです。

これらの感染症は咳やくしゃみによる飛沫感染や、手指を介した接触感染で起こるため、手洗い、うがいをしっかりとすることが大切です。これらのウイルス感染症に有効な抗微生物薬はありません。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、突然の発熱と咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。例年春から夏、及び冬期の2つの時期にピークがみられます。今年は第20週（5月）以降定点あたり患者数の高値が続いています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎には抗微生物薬がとても有効です。また予防には、衛生管理の基本である手洗い・うがいの励行が重要です。（企画調整担当 沼田）



発行者 堺市衛生研究所長 小林 和夫 〒590-0953 大阪府堺市堺区甲斐町東3-2-8
 編集委員長 福田 弘美 TEL 072(238)1848 FAX 072(227)9991
 E-mail eiken@earth.ocn.ne.jp

「衛研だより」では、みなさまのご意見、ご感想をお待ちしております。